

## 2013年度帰国生入学試験「実技試験」「小論文」等の採点基準

学科・専攻	実技試験(芸術学科は小論文)	面接		
	狙い・意図、採点のポイント	狙い・意図、採点のポイント	小論文利用	実技試験作品利用
日本画	モチーフを形・質感の違う複数のモチーフを出題することによって表現力(デッサン力・構成力・色感・質感)を求めた。 また自由に描かせることによって柔軟な発想力を見ることを狙いとした。	実技作品を踏まえ、制作意図を語らせるとともに、提出作品と多摩美術大学への志望理由・小論文を参考に総合的に判断した。	●	●
油画	タンクトップ、短パンを着た女性モデルが椅子に座っている。この服装であると人体そのもの骨格も見やすく、それらを捉える総合的な表現力をよりストレートに見ることができると考えた。又、対象がシンプルであることから一層「見ること」「描くこと」といったもっとも基本的な部分に表われるおのの独自の、想像性を作品から感じとりたと思った。	まず表現すること制作することへの意欲を強くもっているか、これからの制作の場としてなぜ本学を選び希望したのか。又、学生生活におけるコミュニケーションは十分もてるだろうか。このような点について面接、小論文、実技試験の作品から総合的に判断した。	●	●
工芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写を確認する。また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の作者の感動が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。	なぜ本学の工芸学科を選んだのか。そして何を学びたいのか。そして、将来の展望などについて、熱意と説得力のある答えを望む。 実技試験を経た感想や、本人の制作についての考え方や取り組み方を再確認したい。 外国で勉強したことやそこの暮らしの中で学んだことも評価の対象とするので、これまでの蓄積がうかがえるファイルや資料の充実を望む。 また、人物から受ける熱意などもあわせて判断する。	●	●
グラフィックデザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか 色彩構成 ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・造形力 アイデアを明快でムダのない色彩と構成によって、美しく整理できているか ・完成度 手仕事としての仕上げが優れているか ・個性 品格、感性に優れているか	・入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか	●	×
プロダクトデザイン	・理解力＝問題の把握、理解が適切か ・発想力＝アイデアが優れているか ・独創性＝他にないアイデアか ・実現力＝アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力＝アイデアが伝わる表現か	・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×	×
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な基礎的観察力と描写力、及び色彩表現力を問うことをねらいとしてモチーフをガラスの計量カップと黄色いガーベラにして出題した。設問を正しく理解しているかどうか、正確な観察と独創的且つ調和的な構成がていねいにできているかを採点のポイントとした。	ひとつは、授業についていくことが出来る十分な日本語力と造形力を有してかどうかを問うために、もうひとつは、テキスタイルデザインを学ぶための意志や志願の動機を明確に説明できるかどうかを問うことをねらいとして面接試験を実施した。また、海外生活の経験による感覚的な特異性が伝わったかをポイントに採点した。また、共通教育の小論文は日本語の記述力、表現力を見るために参考にした。	●	×
情報デザインコース	日常の中から着想するアイデアの幅と表現の多様性をみることが出題のねらいです。日常の中で使っている道具や素材と自分との関わりを考えることが求められます。文房具というモノだけでなく、記述することにまつわる思いや自分自身との関係性、記述という行為そのものなども表現のテーマとなりえます。採点のポイントは、発見・構成・表現の3つです。テーマの中から何を「発見」して表現に結びつけたのか、それらを与えられた条件の中でどのように「構成」しているのか、自分の意図やメッセージを的確に「表現」できているかを評価しました。	作品またはポートフォリオのプレゼンテーションや質疑応答を通じて、入学の意図や目標が明確かどうか、デザインに関する興味や基礎的な知識があるか、基本的な表現技術が身に付いているか、学科・コースの教育内容を理解しているか、国際的な視野を身につけているか、留学で得たことを制作に生かせるかなどを問い、総合的に評価しました。小論文は質問内容の参考としました。	●	●

## 全学科共通小論文

小論文の出題については、全般的に文章の組み立て方、論述の展開、要旨の明確さ等を通じて、自己の思考性の確かさを試すことをねらいとして出題している。また、美術全般への理解、興味関心の度合いを知ることも併せて目的として出題している。

帰国生については海外での教育レベルを勘案し、本学での就学に支障のない国語能力を有しているか、また、我が国の美術事情に対する理解と興味関心の高さを求めるために出題内容を考えて問題を作成している。